

令和6年度 組合資料収集加工事業

全国中小企業団体中央会では、中小企業・小規模事業者や組合等連携組織が、新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、課題解決等に先進的に取り組む組合活動事例について調査・分析、収集・普及を行っています。

令和6年度は、「支援機関と連携して組合活動が活性化した事例」「販路開拓に取り組んだ事例」「特徴ある組合事例」の3テーマを取り上げ、専門家の協力を得ながら、組合活動事例のエッセンスを「先進組合事例抄録」としてとりまとめました。

そこで、本稿では、全国の取組み事例と群馬県より取り上げた事例(次頁)をご紹介します。

全国の取組み事例(一部抜粋)

工科高校との連携による「金属熱処理出前講座」の展開

支援機関と連携

■西部金属熱処理工業協同組合(大阪府大阪市)

熱処理業界の次世代への継承を検討するうえで、大阪府中央会の事業を活用し人材確保・育成の施策の長期事業計画を策定。立ち上げた委員会活動のなかで、大阪府内の工科高校教職員との交流機会をきっかけに工科高校を対象とした金属熱処理出前講座の実施に至った。学生にわかりやすい事例や題材選びの工夫に加え組合員である企業経営者が直接講師となることで熱量のある講座となり高い評価を得ている。

「女将カード」で県内旅館・ホテルの魅力発信！

販路開拓

■茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合(茨城県水戸市)

「茨城デスティネーションキャンペーン(以下「DC」)」への協力として、トレーディングカード「女将カード」を製作した。第1弾は「茨城ブレDC」で無料配布、第2弾は「茨城DC」で県内食品製造業者とタイアップし、いばらき女将の会カード付ポップコーンを県内の旅館・ホテル等、約200か所で販売した。第2弾はバトル風のカードに変更しつつもゲーム性は高めず、個性的なキャッチフレーズの記載等でコレクターの収集意欲を高めた結果、SNS・テレビ・新聞などで広く取り上げられ、観光客や宿泊客の増加に結びついた。

醤油粕の新たな可能性 醤油粕燻製チップ/ウッド

販路開拓

■埼玉醤油工業協同組合(埼玉県熊谷市)

ほとんどが産業廃棄物とされている醤油の搾り粕を再利用し、販路拡大と廃棄物の削減を目的に「燻製チップ化」した新製品の試作・開発事業を開始。提供された醤油蔵によって風味や香りの個性が違うチップとウッドが完成し、燻製チップ「スモークピース」を試験的に販売中。共通の課題解決を目指すことで組合が一体になるとともに、同事業は食品業界全体の活性化に繋がることも期待できる。

共同でドローンを導入し農作業を効率化

特徴ある取組み

■山陽アグリネットワーク協同組合(山口県山陽小野田市)

高齢化の進展や農産物価格低迷など厳しい経営環境を打破するべく農薬散布用ドローンを組合で購入、組合員と防除作業を共同実施し農作業の効率化を図った。作業やドローンオペレーターの選定を組合員同士で受委託し、連携強化、コスト削減とともに農業収入に加えオペレーター収入による組合員の所得向上を図った。また、効率的な作業、売上確保により組合の円滑な資金運用ができています。

前橋中心商店街協同組合

「前橋めぶく。ビール」で広がる交流の輪！

住	所	〒371-0022 群馬県前橋市千代田町二丁目8番9号		
U	R	L	http://maebashi.info/	
設	立	平成7年4月	主 な 業 種	小売業、サービス業、飲食店

■背景・目的

前橋市中心部の9つの商店街と大型店が連携し中心商業地の賑わいを創出してきたが、売上の低迷や後継者不足等による廃業に伴い、まち全体の衰退は進んでいた。そんな状況を打破すべく、ここ数年民間協力者によるまちなか再生の動きが推進されているなか、新たなシンボリックな名産品として地ビール作りの提案を受けた同組合では、まちなか産ビールをきっかけとした新たな交流の創出に向け「前橋まちなかホップコミュニティプロジェクト」を始動した。

■取組みの手法と内容

大きな課題だった資金調達は、地域密着型のクラウドファンディングを活用。同プロジェクトチームの知人や友人等を中心に協力を依頼したことで順調に目標額を達成すると同時に、まちなかへの関心を引き寄せた。ビールづくりに必要なホップを商店街で栽培することとし、地域住民に広く参加してもらおうとまちなかでのワークショップを開催、ホップの栽培・収穫体験の実施やビールのテイストも参加者同士で意見を出し合い決定した。こうした活動を通して、まちに訪れる楽しみを感じてもらえるなど、商店街関係者と参加者との間に新たな交流が築かれた。

また、地ビールのネーミングには前橋市が掲げる前橋ビジョンのキャッチコピー「めぶく。」を取り入れるなど、同プロジェクトはまちへの愛着や思い入れが強い活動となった。

商店街産ホップを使用した「前橋めぶく。ビール」のお披露目イベントにはおおよそ400人が来場、クラウドファンディングの返礼品も含めて用意した約300杯分のビールが売り切れるほど大盛況のなか、完成を多くの人達で祝うことができた。

前橋市中心街で栽培したホップを使って醸造した「前橋めぶく。ビール」は、みんなが気軽に楽しめる新名産としてまちなかでの提供体制の構築を目指している。

■成果とその要因

地域密着型のクラウドファンディングを活用したことで、運用資金の確保と地域住民の商店街活動への理解や関心の高まりにつながった。また組合関係者と地域住民が、まちなかで一緒に楽しみながら活動を共有してきたことで仲間意識が形成され、新しいまちなか交流が創出されたと考えられる。



ホップ収穫体験



お披露目イベントで完成を祝う参加者



前橋めぶく。ビール



参加者・協力者と一緒に楽しみながら活動を行った結果、まちなか産の地ビールを誕生させることに加え新たな仲間としての交流も生まれ、今後の商店街活動の広がりが期待される。